

## 第1章 施設と用具

### 第1条 競技場（第1図）

競技場には、コートおよびフリー・ゾーンが含まれる。また、その表面は、平らで水平であり、かつ、均一でなければならない。

競技場の表面から最低7mの高さと、フリー・ゾーンの中には支柱、審判台を除き、一切の障害物がないことが望ましい。

#### 第1項 コート（第1表）

1. コートは、第1表のような広さをもつ長方形であって、最低3mの長方形のフリー・ゾーンによって囲まれている。

（第1表）

種 別	長 さ	幅
男 子	18.0m	9.0m
女 子	16.0m	8.0m

2. コートは、競技者に負傷のおそれがあるもので、たとえば荒れていたり、滑りやすい表面などであってはならない。

#### 第2項 コートの区画線と名称

1. 区画線の幅は、すべて5cmで、コートの中に含まれる。また、区画線は、コート内外の表面と明瞭に異なった色でなければならない。
2. コートの長い方の区画線をサイド・ライン、短い方の区画線をエンド・ラインという。
3. 両サイド・ラインの想像延長線の幅を含んだ内側で、エンド・ライン後方を、サービス・ゾーンという。

### 第3項 照 明

競技場の明るさは、コート面上1 mの高さで、1,000 から 1,500 ルックスでなければならない。

## 第2条 ネットおよび支柱（第2図）

### 第1項 ネット

ネットは、幅1 mで、両サイド・ラインの外側に2.5 m以上張れる長さとし、黒色の網目10 cm四方のものでなければならない。ネットの上端にはワイヤー・ロープを通し、その上から幅10 cmの白布を二つ折りにして、ネットの両面に5 cm幅ずつネットの全長にわたって縫い付ける。

また、下端にはロープを通し、ネットの両端で固定する。

ネットは、その全幅をコート面に垂直に、かつ、コートを二等分するように、両支柱間に強く張る。

### 第2項 高 さ（第2表）

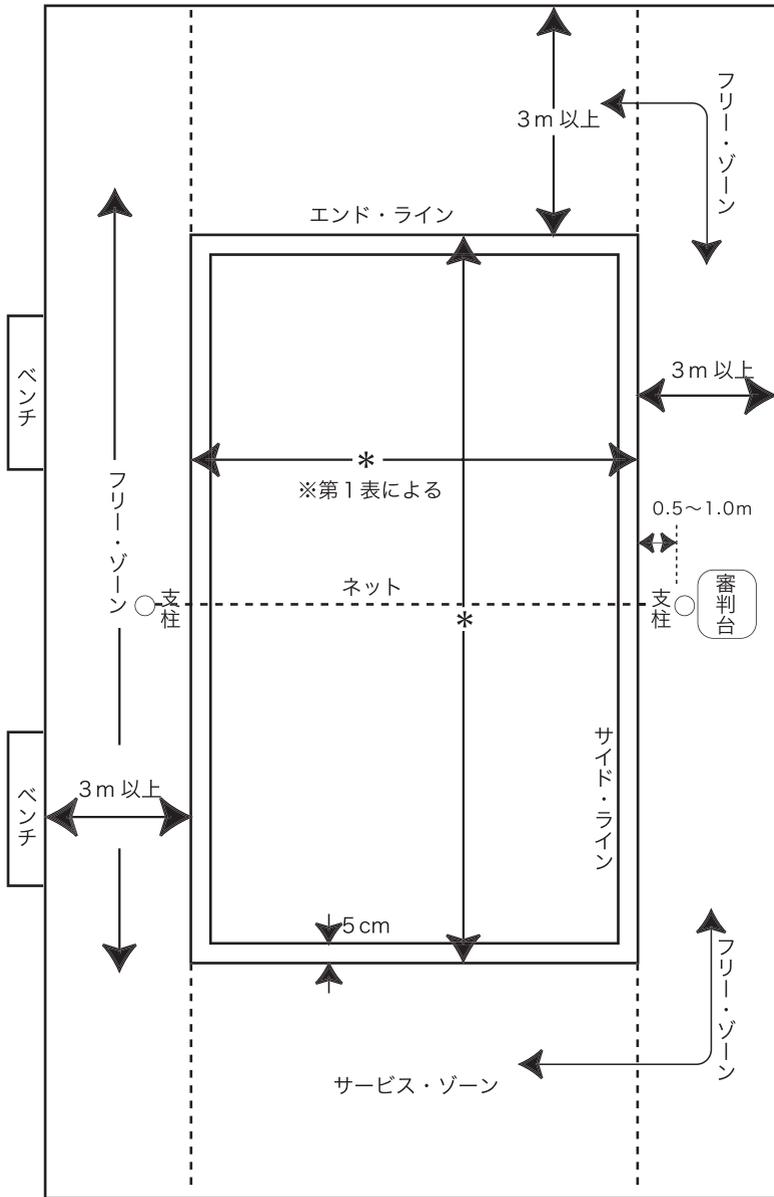
ネットの高さは、その中央で測ってコート面から次表のとおりとする。また、ネットの両端は、コート面から等しく、規定の高さから2 cmを越えてはならない。

（第2表）

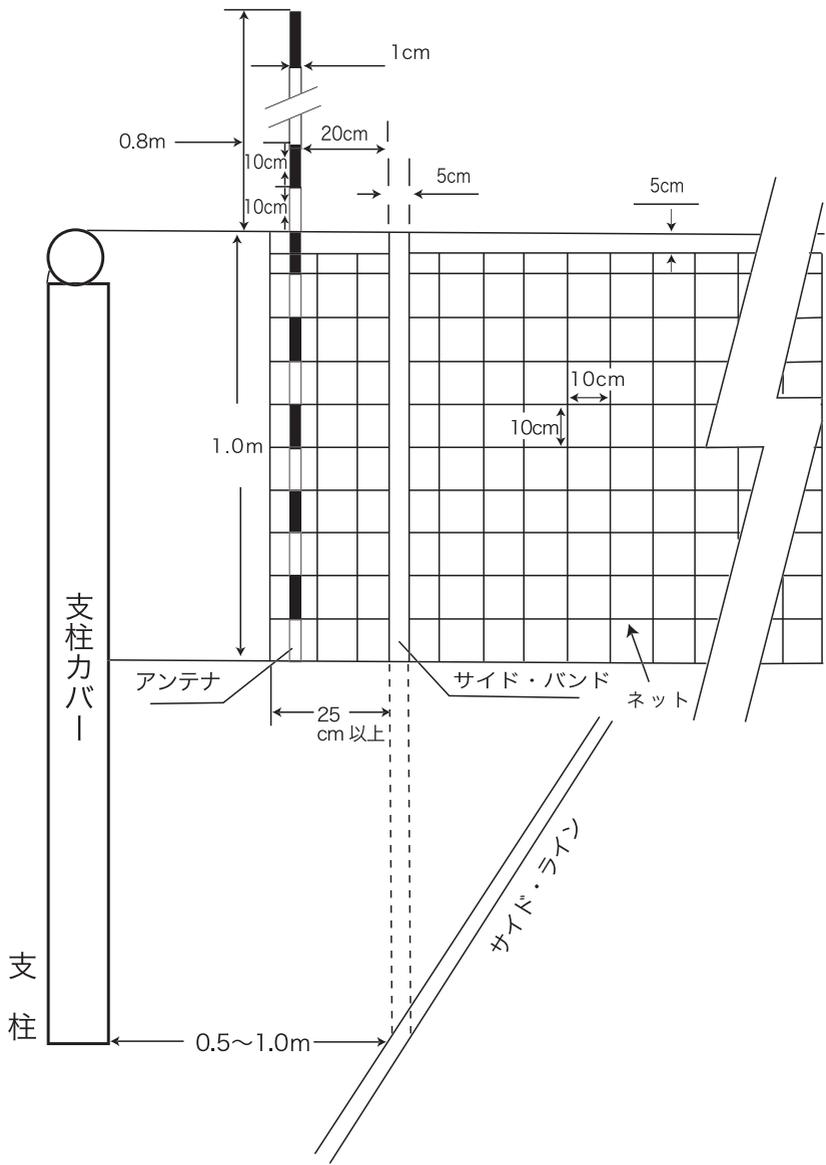
種 別	高 さ
男 子	2.25m
女 子	2.05m

### 第3項 支 柱

支柱は、コートを二等分する線上で、両サイド・ラインの外側から50 cm以上離れた位置に立てる。その支柱を固定するために、ワイヤーなどを使用してはならない。ただし、屋外の場合については、必要に応じ使用することができる。



第1図 コート規格図



第2図 ネットおよび付属物規格図

#### 第4項 サイド・バンド

サイド・バンドは、幅5cm、長さ2mの白地のテープでネットの両端にサイド・ライン上方で二つに折って、コートに垂直に、またネットに密着して取り付ける。

#### 第5項 アンテナ

アンテナは、長さ1.8m、直径約1cmの棒状のもので材質はグラスファイバー、もしくはそれに類似の弾性のあるもので、10cm間隔に赤、白交互の縞模様が付いていなければならない。

その取り付け方は、ネット上に80cm出るようにし、ネットに正対して左手前、サイド・バンドの外側20cmにアンテナの内側がくるように、ネットに密着させる。

### 第3条 ボール

#### 第1項 規格(第3表)

ボールは、ゴム製または類似の袋を、なめし革製の外皮で覆った球状のものとする。その円周および重量は、次表のとおりである。

(第3表)

種別	円周	重量	号球
男子	66±1cm	270±10g	5
女子	63±1cm	250±10g	4

## 第2項 内気圧

ボールの内気圧は、0.30から0.325 kg/cm<sup>2</sup>（294.21から318.7275 hpa）までとし、同一大会においては、同一の内気圧のボールを用いる。